

病室でのベッドサイドケア

次は病室を案内してくださる酒井さん。患者さんの部屋を勝手に撮るのは憚られるため、まずは空いている一室で全景を撮影。

大きな窓からは陽光が降りそいで、とても明るい部屋である。病院の7階という高層階だけあって、窓からの眺望も素晴らしい！

部屋の外のベランダに出てみると、眼下には宇治市内を一望できる雄大な景色が広がっていた。

ホールも病室も、とても治療環境の良好な部屋ですね！

「そうですね。宇治の花火大会が毎年開催されていた頃は、患者さんと一緒に鑑賞したりしていました。ただ、寝たきりの患者さんは自力で動くことができません、点滴や酸素が常時必要だったりもするので、レクリエーションや創作活動といった日頃のプログラムに参加していただけない場合が多いんです。だからこそ私たちは、病室でのベッドサイドケアに力を入れています」

ベッドサイドケアというって？

病棟の談話スペース

「ご家族から提供していただいた、お孫さんの写真を枕元に置いて、それをきっかけにいろんな話をうかがったりしていますね。寝たきりの患者さんであっても、こういうアプローチができるかを考えることが、受け持ちスタッフのモチベーションにもなっています」



空室の全景



ベランダからの素晴らしい眺望

アロマの効果も

ホールに面するステーションには、アロマテラピーの道具も置かれている。

これも治療的な意味があるんでしょうか？



ステーションにはアロマセラピーの道具も

者さんでも、そこにタオルをあてがったのミスト浴は可能です。保温とリラクゼーション効果が得られますね」

ふと窓際に目をやると、すごい数のシャンプーやリンスが林立していた。なんだか壮观……。

「病棟ではボトルキープ方式で、患者さんがそれぞれ持ち込みのシャンプーやリンスを使用しています」



寝たまま入れるミスト浴の装置



シャンプー&リンスはボトルキープ方式

お仕事への思い

さいごに普段のお仕事でのご苦労や思いについてうかがってみました。

完治が難しい高齢患者さんに日々向き合っておられると、疲弊したり燃え尽きたり

されないかと心配ですが……。

「たしかに重症度が高く自発的な訴えができない患者さんが多いです。つらくても、痛いとかしんどいとかさえ言えないわけです。だからこそ、私たち職員が日頃から患者さんの様子をよく観察して、調子の変化に気付くことが大切です」

具体的にどのような様子に目を配っているんですか？

「たとえば顔色や表情もそうですね、手足の温度や浮腫み、口腔内の粘膜の状態……こういった小さな変化も見落とさず、異常を感じたらすぐ主治医に伝えるよう心がけています。そのぶん、神経を張り詰めることも多いのですが」

神経を張り詰めたながらも燃え尽きることなく元気がなげられる原動力はなんですか？

「患者さんを一人のスタッフで担当するのはなく、看護師と介護士のモジュールで受け持つ、困っていることや情報を常に共有し合えることが大きいんです。そして、懸命にかかわることで病状が回復されて、こちらの声掛けに反応してくださるようになったり、グループホームなどの施設に退院が決まったりされると嬉しさもひとしおです」

酒井さん、業務にお忙しい中、取材にに応じていただきありがとうございます。いきいきとお仕事に向き合う姿勢がとても印象的でした!!

(取材と原稿/臨床心理士・名倉)



酒井 結花 (さかい ゆか)

取材協力